

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102885		
法人名	(株)ベネッセスタイルケア		
事業所名	くらら門田屋敷		
所在地	岡山県岡山市中区門田屋敷3-5-20		
自己評価作成日	平成28年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370102885-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成28年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、ご入居者様の生活がご自宅に居た時と変わらず、生活リズムを整え、その人らしく、個々の健康面に注視しながら気持ちを表出できる環境の中でスタッフはお手伝いをさせて頂いています。
 2、地域交流を目的とした「夏祭り」「お餅つき」「地位交流講座」「椅子ヨガ&くららカフェ」等の開催、地域の中で防災に対する連携、他介護保険施設との合同水害訓練を実施させて頂いています。
 3、自社の研修ではあるが「介護技術」「認知症」「ワークバランス」「コミュニティ」「環境」「摂食嚥下」等の各研修へ参加して介護職員の育成を図っております。特に介護技術ではそこで習得した技術を地域の方へ介護ミニ講座を通して広めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

もう少しで開設20周年を迎えようとしているこのホームは、当初から居室にマイトイレを設置する等、一人ひとりの人格を尊重し認知症を患っていてもその人の尊厳やプライバシーを大切に守っていきつと努力し続けてきた。ベネッセスタイルケアという大きな法人の中にあって「よく生きる」の理念のもと、各種研修や勉強会実施で職員のスキルアップやセルフチェックにつないでいる。昨年度利用者の入れ替わりが有り、家族・主治医・職員共々、そして多分本人も納得のいく尊厳死をここで迎えられたり、認知症等の疾患の為に他施設では暮らせなかった人に粘り強く対応を模索して落ち着きを取り戻す等、歴史と実力のあるホームならではの実践を見る事ができた。長年念願としてきた「地域との交流」も年々幅と深みを増し、努力が形になってきている。ホーム長は「次の課題は家族との関わり方」として「家族会」や「運営推進会議」等にも視野を広げて取り組もうとしている所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様と従業員の「よく生きる」を実現する為に「ベネッセスタイルケア宣言」を従業員と年1回研修を実施。ベネッセスタイルケア従業員として「5つの行動宣言」「10の行動基準」にて自分が入りたいホームであるかまた、自分の親を任せられるホームか日々考えた行動をしております。	今年度の目標は「自分らしく安定した生活」「地域との連携を充実させる」を掲げていたが、1年間を振り返り、地域交流講座への取り組みや認知症カフェを定期的開催する等、地域交流も徐々に深みを増してきたところであり、職員も次なるステップに取り組もうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節によるが散歩や買い物や隣接する学校の地域ふれあい祭や花火大会など催しの際には地域の中で交流を図っているが日常的な交流は少ない。	町内会クリーン作戦に参加したり、中学生の職場体験を受け入れている。昨年末には地域交流の一環として「餅つき」をして、積極的に地域住民との交流をしている。日常的に散歩の途中で触れ合う機会を持つなど、地域に開かれたホームとなりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流講座・椅子ヨガ&くららカフェ・季節行事等への参加呼びかけに町内会の回覧板・掲示版を使用して地域へ案内をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎、年6回の計画にて関係者各位へ案内、実施しています。ご意見には都度対処して町内会の情報を受けて地域との連携に務めています。	市の担当者、町内会長、民生委員、老人会会長、家族、他施設施設長等の多彩な参加者で定期的開催している。意見交換も活発で参加者から、「外出アクティビティもカフェに行くだけでなく、近所の散歩もあるのでは？」という意見も出る等、有意義な会議をしている。1年間の議事録の総括表を作成している。	運営推進会議での意見交換や振り返りがとても良く出来ている事が記録からうかがえた。この会議によって実現出来た取り組みをきちんと評価し、関係者・家族にも伝えてこの会の活用の重要性を周知させたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市事業者指導課へは運営推進会議の案内、岡山市中区地域包括支援センターへはセミナー開催のご案内や運営推進会議の案内等で1～2ヶ月毎に連携をさせて頂いています。	地域包括と話し合い、合同でH28. 2月から年3回の地域交流講座を予定している。市の担当者の会議への参加もあり、ホームの活動については日頃からよく理解してもらっているし、良い連携が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置して毎月1回、具体的な行為について振り返りを行い、議事録にて残すようにしています。玄関は不審者侵入を防ぐ事を目的に施錠しておりますが鍵は使用していません。ご入居者様が出やすいように簡単錠となっております。	新しく入所してきた人の中には帰宅願望が激しく、職員も心理的満足感を模索して試行錯誤した結果、「ことわざの本」をきっかけに2ヶ月程で徐々に落ち着いてきた例もある。委員会でも事例を話し合い、身体拘束・スピーチロックをしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置して毎月1回、ご入居者様の状況やスタッフのストレスを感じてる事、自浄作用がある環境が話し合われている。議事録と残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度につきましては玄関へパンフレットを置き、ご家族様へ活用出来る様案内をしており、活用の際にはサポートさせて頂いています。また、権利擁護に関してはスタッフに虐待防止の基準説明と合わせて簡単に説明はしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お話を伺えるような環境と時間を作り、説明をさせて頂き、疑問点もお聞きするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問の際にご家族様との会話の中から意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。また、年1回、運営懇談会の際にアンケート調査を行いご意見を頂いた所は懇談会にて説明、次期運営計画としてあげていくようにしています。	年2回行っている家族会には数名の家族の参加があり、親睦・交流をしているが、今年度からの食事サービス変更に伴い、試食会をした。運営懇談会では「アクティビティが見えない」という意見があり、職員間で改善に向けて話し合う等、本人・家族からの意見や要望を運営に活かすようにしている。	家族同士の交流を密にしたり、入居しても家族としての絆を保ち続けていただく支援を続けていく事が、より良いケアやサービスの向上につながると思う。「ホームにおまかせします」という家族の意識を少しずつ「第二の自宅」と認識していただけるよう努めて下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護目標シートを用いて年3回定期面談を行なっている。また、ホームについての運営アンケートを実施、アンケート結果についてスタッフ全員で振り返り、意見を聞きながら次年度へ向けた計画を図っております。	新規職員も加わり、ホームページ等得意な分野で活躍してくれる。スタッフ育成には力を入れており、年3回個人面談をしているが、ホーム長と職員は本音が言える、意見を言い易い関係ができています。新人職員からは業務に慣れてきて効率良く動けるようになったという自己評価もあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は大阪を拠点としているが日頃より相談できる環境であり、毎日の日報を確認し、勤務状況も把握され、安心して働けるように努めている。又スタッフ個々の相談や面談にと努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内ではあるが各PJ(環境、コミュニティ、ワークバランス、摂食嚥下、スタイルケア(非常勤))また、認知症、介護技術、中途入社(3カ月、8か月含め)常勤、非常勤が研修を受ける機会を確保しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流は少なく、近くの施設とは勉強会や季節行事、防災訓練等を通して交流を図っております。自社の他ホームとは介護ミニ講座や季節行事・事例発表などを通じてサービス向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前のアセスメントの際にはご家族様やご本人様よりご入居後安心して継続した生活が出来る様お話を窺わせて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至った経緯を伺いご家族様のご意見やご要望の把握に努め「安心して暮らしていく為には」についてお話をさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントから見えてくるニーズを重点サービスとしてあげる事で個々に沿ったサービス利用を提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケア記録やスタッフの申し送りノート、又は口伝にてご利用様が迷いがないようにケアの統一を図り残存機能に応じた役割を作り、お話を聴く態勢を作り寄り添い、スタッフと共に同じ方向を見据えて信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族レターでは日常の生活をお伝えしています。行事や個人アクティビティへの参加の呼びかけを行ったり、日頃のお出掛けや訪問の際には一緒に過ごしやすい環境を整えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後初めてご自宅へ帰る方にはご家族様のご要望をお聞きして、スタッフもご入居者様と同行してご入居者様が混乱されない様にお手伝いをしています。近隣のお散歩や買い物などで挨拶を交わす程度ではあるが社会的交流ができるように支援に努めています。	毎月、子供達がそれぞれ他県から面会に来てくれる人もいれば、日中は息子の送迎で自宅に帰り夕方ホームに帰ってくる人もいます。家族の希望もあり昨年初めて自宅に帰った人がいて、職員が付き添い同行した。それぞれの馴染みの関係支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフはご入居者様との関係性を把握して円満なコミュニケーションが図れるようにサポートさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後もお見舞いに伺ったり、必要に応じて相談・支援を行っております。また、近隣のご家族様には季節行事の案内をさせていただいたりとしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人様との会話の中から、表情、行動又はご家族様からの情報をもとに本人様の現状を踏まえながら検討を行っております。	「倉敷の美術館に行きたい」という想いを話してくれた人等、一人ひとりの想いを叶える為のプランを立てていこうと計画中であり、ここでの暮らしの中で満足感や生きがいをもってもらえるような支援に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの望みをひとつでも叶えよう、という「きらきらプラン」はとてもすてきなチャレンジと思う。完璧な支援でなくても本人の喜びにつながる努力を期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前からのご様子や生活歴をご家族様からの情報を聴き取り、ご本人様からも写真や日々の生活の中での会話にて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居前の生活リズムを踏まえた上で1日の生活のリズムや日々の心身の状態を見逃さないように記録し、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、チームミーティングや全体ミーティングにおいて検討・評価を行い、主治医又はご家族様へは電話や訪問の際にご相談させて頂きながらプランを作成している。	介護経過記録は臨場感があり利用者の思いや状態が良く伝わってくる。モニタリングを定期的に行い、職員間で話し合っケアプランを作成している。次年度は精神的ケアを重視した「きらきらプラン」を作ろうと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りや口伝にて情報を共有しケアの変更を担当者を含めケアマネと連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談しながら出来る範囲で調整を行ない取り組ませて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中でスタッフは情報を提供して行きご本人様が望んだ暮らしが出来る様に支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医により週一回の訪問診療を実施している。かかりつけ医と協力医と共に連携を図りながら適切な医療を受けられる様に支援をしている。	従来のかかりつけ医を受診する人、ホームの協力医が主治医の人とそれぞれであるが、ホームの協力医は日頃からとても協力的で他科受診が必要な人には紹介状を書いてくれる。職員が同行する事が多い。不定期ではあるが、訪問歯科を利用している人が現在1名いる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関・各主治医の看護職員へ連絡をしてご入居者様の変化や気づきを相談し適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には主治医の紹介状と合わせて介護サマリを病院へ報告させて頂いています。入院中は他職種との合同カンファレンスに参加情報をご家族様と一緒に共有しています。備えては病院関係者との関係作りはしていません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と協力医療機関及び主治医と連携して介護職員で出来る事出来ない事を説明して理解を得れば看取りをさせて頂いております。	昨年看取りをした人は、ターミナルという気がしないくらい最期まで話も出来て職員の声かけにも返事をしながら、眠るような最期だった。ホームではこれまで十数名の看取りをしてきたが、この人のような大往生は初めての経験であり、主治医から家族に対して納得のいく説明もあり、家族からも感謝の言葉をいただいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成、年一回研修を行っています。マニュアルに沿って動けるように壁に掲示している。心肺蘇生・AED使用方法など年1回訓練を受けています。定期的には行ってはおりません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(日中想定と夜間想定)へはセコムの担当職員を交えての地域関係者も参加して下さっている。また、他介護保険施設と合同で水害訓練を実施。地域の方との協力体制づくりに努力しています。	高所避難目的で近くのケアハウスと合同で水害訓練を実施しているが、1台の軽自動車で3往復する為時間がかかるのが課題であり、町内会長から隣の専門学校へ避難した方が早いのではとの助言もある。市の旭東消防分団の訪問があり救命救急講習を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「プライバシー保護」基準を読み合わせを行う事で日々のケアにおいての一人一人に対しての関わりについて確認をしています。	記録は利用者の前では書かない。机の上で個人情報情報は開かない等を職員間で徹底し、自己管理している。「プライバシー保護」は法人の方針であり、年2回職員も法人内のテストを受けて、意識付けと自己研鑽をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居様との普段何気ない会話から見られる表情や行動を洞察しながらご本人様が選択し意思を表出しやすい声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の思い、ご家族様の思いを柱にその時の状況を考慮しながらご本人様が納得のいく形で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意向を伺いながら保清と気候に合わせた服装の提案をしていき支援をさせて頂いています。 月1回訪問理美容あり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居様が自分の役割として取り組めるよう、お声かけをさせて頂いております。決して無理強いせず、楽しめるようお誘いしております。現在利用者様と職員と一緒にお食事を摂ることが無くなりましたが職員はそれぞれにお声かけしております。	H27. 9月から同系列の会社からの調理済み食品提供へ変更した。家族にも試食をしてもらい「美味しい」という評価だった。「おやつ」はホームで作ってはどうかと言う意見もあり、検討中との事。通常食・軽菜食・ミキサー食等、その人の食事形態に合わせて出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事は記録し、嗜好によりお食事が摂れない場合は補食を用意したりとしています。水分補給は不足しないように注意はしています。水分量の把握の必要な方は記録に記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいの声かけと共に歯みがきを含めた口腔ケアのお手伝いをさせて頂いたり、必要に応じて義歯管理もさせて頂いています。また、訪問歯科を利用出来る様に支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の表情や行動を読み取りお声掛けを行うと共に定時誘導にてトイレに座る習慣をつけて排泄を促がす支援を行っています。	個々の排泄リズムを把握して、定期的に声かけをしているが、言葉で伝えられない人は動作を見てキャッチしている。夜間不眠があり、トイレで座位が出来ない男性利用者には尿瓶を使用しているが、トイレ座位での排泄の自立支援を基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人様の排便状況を把握し水分補給やお食事量、服薬等を見ながら運動を促がすと共に飲み物や食品に配慮はしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるがご本人様の意向をお聞きしてから意に添うように案内をさせて頂いています。(入浴前の健康チェック(発熱や血圧)で入浴出来ない事もあります)また、ご家族様のご意向も取り入れて支援させて頂いています。	入浴回数は週2～3回という基準はあるが、毎日足浴している人、月・木と自分で曜日を決めている人、二人介助の人、夏場は回数を増やす等、その人に合わせたプログラムにしている。入浴や更衣拒否がある人には誘い方の上手な職員と交代することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居前の生活パターンを崩すことなく又生活のリズムをつけて暮らす事で眠れる様に支援している。眠剤の服用には主治医・ご家族様やご本人様と相談しながら個々に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状や処方内容を理解しており、症状の変化等ないか日々確認に努めている。又、服薬支援では誤薬の防止に与薬手順を決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を生かし、散歩や花への水やりお台所の後片付けや洗濯物たたみなどしていただく事で感謝の言葉で伝え、役に立っていることを示しています。歌を唄ったり、貼り絵、回想や習字等本人が興味を持ったら参加して楽しめるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年行事ではあるがカフェへ出かけたたり、花火大会を近くの施設まで観賞出かけたたり、初詣に出たりとしている。また、庭の草抜きや片づけのお手伝いをして下さるなど日々の中でご本人様の状況を伺い、支援をしています。	花見やカラオケ、美味しいケーキを食べに出かけたたりして楽しんでいる。今、体力作りの為、、歩行困難な人は車椅子対応にして利用者・職員全員で散歩に出かけることを模索中であり、一つの目標にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や病院受診の際などはお預かり金をご家族様より預かっている事を説明して支払いをホーム側でさせて頂きご家族様へは報告をさせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話をかけたりご友人と便りが出来る様支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様の安全性を考慮して季節を感じていただける様、また居心地よく過せるように配慮している。	利用者の入れ替わりもあり、今はリビングのベッドで長時間過ごす人は無く、主に休憩用に使用している。日中は自分の部屋で過ごす人もいるので、それぞれ自室とリビングを自由に行き来して過ごしている。アクティビティカレンダーが掲示しており、曜日によって椅子ヨガ、脳トレ、音楽療法、作品制作等を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席が一応決められていて気のあった馴染みの関係性が出来上がっているが時にいつもと違ったりすることもあり、その時々で臨機応変な対応をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し安全に配慮しながら馴染みの家具や生活用品を持ち込まれて工夫をしているが認知症状により生活用品を置かない方が良い方もおります。	トイレ・洗面台が居室にあり、日中は自室でゆっくり自分のペースで過ごす人もいる。比較的シンプルな居室が多く、その人の症状に合った工夫をし、落ち着いた居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部は皆さんが馴染んだ生活空間をあまり変化を付けずにシンプルにしています。居室では皆さんが混乱を招かないように物の位置に配慮しています。		